

日本庭園学会ニュース

The Academic Society of Japanese Garden News

NO. 77
平成 26 年

予告 平成 26 年度 全国大会・研究会発表会

発行 日本庭園学会(会長 鈴木誠)
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1
東京農業大学 地域環境学部 造園科学科
ガーデンデザイン研究室内
TEL(03)-5477-2430(鈴木誠研究室)
<http://www.soc.nii.ac.jp/asjg/>

予告 平成 26 年度 全国大会

新潟県における全国大会の初開催

平成 26 年度の全国大会の開催スケジュール及びシンポジウム等の概要が決定した。

開催日時は、平成 26 年 6 月 21 日(土)、22 日(日)の 2 日間。1 日目は、研究発表会ならびに現地検討会を予定している。2 日目は、県下の近現代における邸宅の庭において現地検討会が行われた後、「自然主義風景式庭園の潮流と旧齋藤家別邸庭園」と題してシンポジウムを開催する。

シンポジウムの表題にある旧齋藤家別邸は、新潟市中心市街地に位置し、2 代目松本幾次郎と弟の亀吉が大正 6 年(1917)から約 4 年間に要し作庭した、砂丘列を活かした雄大な庭園がある。市民運動で「個の庭」から「公の庭」となった庭園は、季節感をベースに陰影のある奥山の風景や野辺の明るさを基調とした誰にでも分かる美しい自然が表現されている。これらは近代数寄者らの影響を受けつつ 2 代目幾次郎と亀吉が生み出した自然主義的な作風と言える。このような作風は「雑木の庭」の創始者・飯田十基や小形研三らに引き継がれていった。

飯田十基(1890～1977)は、2 代目幾次郎や岩本勝五郎に師事し、2 代目幾次郎の下で渋沢栄一郎、阪谷芳郎邸、岩本の下では山縣有朋の邸宅である椿山荘、古稀庵などを手掛けた。大正 7 年(1918)に独立した飯田は、武蔵野の雑木林を取り入れた数寄屋の庭を数多くつくり、自然主義風景式庭園の潮流を大きく発展させた。その弟子小形研三(1912～1988)は、昭和時代に「雑木の庭」を庶民の庭として定着させ、さらに雑木を公共造園に組み入れて全国的に普及させた。旧齋藤家別邸庭園

に見られる自然主義風景式庭園の潮流は、現代の庭園スタイル「雑木の庭」を誕生させる先駆けとなった。旧齋藤家別邸を主題にこれら近代の庭園事情とその潮流について多くの参加者と議論し見識を深めたい。さらに庭園を核としたまちづくりの視点においても、この庭園を事例に関係者と議論を深めていきたい。

会場は、1 日目がホテルイタリア軒と旧齋藤家別邸、2 日目は伊藤家庭園、清水園、石泉荘庭園とホテルイタリア軒を予定している。詳細については、本紙次号(No. 78)で案内する。



旧齋藤家別邸庭園

全国大会 概要

■日時

平成 26 年 6 月 21 日（土）、22 日（日）

■場所

大会・シンポジウム

ホテルイタリア軒（新潟市中央区西堀通七番町）

研究会・研究発表会

旧齋藤家別邸、旧清水常吉別邸（北方文化博物館新潟分館）

現地検討会

伊藤家庭園、清水園、石泉荘庭園（予定）

■タイムスケジュール

1 日目

- 9:00 理事会
- 10:00 開会
- 10:20 総会・学会賞受賞者講演
- 13:00 研究発表会
- 16:40 シンポジウム
- 18:30 情報交換会（レセプション）
於 ホテルイタリア軒

2 日目 ー現地見学会ー

- 8:30 現地検討会開始
- 9:30 清水園（北方文化博物館）
- 10:30 石泉荘庭園見学
- 13:30 ホテルイタリア軒到着 シンポジウム受付
- 14:00 開始
- 16:30 終了

■見学地（予定） 概要

伊藤家庭園（新潟市江南区沢海）

伊藤家は 250 年以上続く旧家で、大正 13 年には 1,300 町歩を所有する日本を代表する豪農となった。

庭園は田中泰阿弥によって改修され、鉄製の置き灯籠（天正元年、与次郎作）や小町灯籠（推定鎌倉期）などの名品がある。庭内の茶室は 5 つで全て田中泰阿弥の設計。1953 年から約 5 年の歳月をかけて作り上げた新潟

を代表する庭園。

旧新発田藩主溝口家下屋敷庭園（清水園）

（新発田市大栄町）

庭園は、池泉回遊式で、日本中の美しい自然や名勝を集めて理想世界を演出したもの。庭園内には桐庵、夕佳亭、翠涛庵、同仁斎、松月亭などの茶室があり、全て田中泰阿弥の作。庭園はもともと 4 代溝口重雄（1632～1708）によるもので、1953 年から 56 年にかけて田中泰阿弥がこれを改修し、1972 年に完成している。庭園は 2003 年に国指定名勝に指定されている。

石泉荘（旧石崎氏庭園）（新発田市諏訪町）

明治時代に料亭「花菱亭」として建てられた建物のうち、茶室（1895）と離れ座敷（1905）は 2007 年に国登録有形文化財となった。庭園は約 1,500 坪で、庭園のほぼ中央を川幅約 4m の新発田川が流れ、明治初期の料亭の風情を残す。



旧齋藤家別邸庭園

■研究発表の募集

平成 26年度の研究発表会で発表を希望する方は、下記の要領にしたがうこと。発表時間は、ひとりあたり30分とし、発表25分、質疑応答5分を予定している（変更する場合もある）。また、発表にはPCプロジェクターの使用が可能である。

◆発表申込み、発表要旨提出期限

平成26年4月12日（土）

◆申込み方法

発表者氏名・所属・題名・連絡先を明記し、発表概要（200字程度）を添付のうえ下記の「発表申込先」まで送付すること。原則的にはEメールとするが、郵送もしくはFAXでもかまわない。

◆発表要旨提出期限

平成26年5月16日（金）（本文版下原稿の郵送期限）
※Eメールでの送付の場合は、同日17：00までとする

◆執筆要領

全発表者分を研究発表要旨集として印刷し、当日参加者に配布する。原稿はそのまま要旨集の版下とするため、ワープロを使用して作成すること。文量は、A4判で2ページもしくは4ページ、6ページとする（奇数ページでの原稿は、受け付けない）。
原稿の体裁は、学会HPよりダウンロードすること。

◆発表の申込み先・発表要旨の提出先

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1
東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科
全国大会運営委員 栗野 隆
電話：03-5477-2428 FAX：03-5477-2625
Eメール：t3awano@nodai.ac.jp



平成 25 年度関西大会シンポジウム



平成 25 年度関西大会研究発表会



平成 25 年度奨励賞授与式

第8回 日本庭園学会賞の募集のお知らせ

日本庭園学会では、日本庭園や日本庭園に関わる研究に関する業績を顕彰するために、日本庭園学会賞を設けています。今年度は第8回の募集をおこないます。

審査の対象は、論文など学術に関すること、庭園技術や技能に関すること、庭園に関する著作等です。著作等には、映像や写真も含まれます。

応募締め切りは、平成26年3月31日（必着）です。なお、応募書類は返却しません。

この賞は会員ばかりでなく、会員の推薦する者も学会賞の対象者になりますので、庭園学の発展のために、自薦、他薦を含めまして、ぜひご応募のほどをお願いいたします。

平成26年2月
学術委員会委員長
藤井 英二郎

■日本庭園学会賞 募集要項

- 1.（目的） 日本庭園およびそれにかかわる研究に関する業績を顕彰するため。
- 2.（対象者） 日本庭園学会員または学会員の推薦する者。
- 3.（対象） 学 術：庭園に関する論文で、庭園学の発展に貢献した者。
技 術：庭園に関する計画・設計・施工、維持管理・運営、遺跡調査、復元整備、修理等庭園技術および技能の発展に貢献した者。
著作等：庭園に関する著作、映像、写真等の業績が極めて優れていると認められた者。なお、他に奨励賞を設けることができる。
- 4.（表彰） 総会で学会長が授与し、その内容を日本庭園学会誌に公表する。
- 5.（応募） 授賞対象者は学会員または学会員の推薦する者とする。
推薦者は別紙に定めた「日本庭園学会賞推薦応募書」と選考に必要な資料を添えること。

■応募書等の送付先

日本庭園学会事務局

〒150-0041 東京都渋谷区神南1丁目20番11号 有限会社 造園会館 事務所内

■応募の締め切り

平成26年3月31日（月）（必着）

■応募に関する問い合わせ先

信州大学農学部 佐々木邦博

Tel & Fax 0265-77-1500（直通）

E-mail ksasaki@shinshu-u.ac.jp

報告

平成 25 年度日本庭園学会関西大会 現地検討会 (1)

平成 25 年度日本庭園学会関西大会が、去る 11 月 9、10 日に開催された。シンポジウムと研究発表が行われた初日とは打って変わり、現地検討会が行われた二日目は朝から冷たい雨が降り続く一日となった。今年の見学先は、前日のシンポジウムテーマ『京都市内の町屋を含む民家の庭の調査』の主旨に沿って、近代京都の邸宅及び庭園を知る事のできる例として 2 か所が選ばれた。いずれも下鴨神社の糺の森を目前にして建つ「旧三井家下鴨別邸」と「石村亭」である。

最初に訪れた「旧三井家下鴨別邸」は、糺の森の南端、鴨川と高野川に挟まれた土地に位置しており、敷地の形も土地の特徴に合わせて南に窄んだ三角形に近い。門を入ると主屋が見え、その西側には現在修理中の玄関棟が建つ。この玄関棟を回り込んで主屋の南に出ると、向かって庭が広がっている。また主屋の南東に隣接して茶室が建っているが、玄関棟と同じく修理中のために概要は伺う事ができなかった。本邸は国の重要文化財に指定された事により、京都市の管理下に修復作業が行われている最中であるが、庭園についても復元のための調査が進んでいる。現在は池の周囲の植栽は伸び、地面にも根が張っている状態だが、池に架かる石橋や奥の築山などの造形は良く残されていて往時が偲ばれた。

次に訪れた「石村亭」は日新電機株式会社所有で、かつては谷崎潤一郎が家族とともに居住していた邸宅である。糺の森の通りを挟んだ東側に在り、その正門を入ると垣根に挟まれた趣のある路地が中門に続いている。中門をくぐるとすぐ目の前に母屋の玄関が在り、その右手には直接庭に通じる小道が通っていた。母屋に上がらせて頂き、邸宅についての詳しい説明に耳を傾けながらガラス越しに雨に濡れた庭園を眺める。母屋の建築意匠の凝った造りも、台所に設けられた深い井戸も興味深く、また谷崎が仕事場としていた書斎に増設されたモダンな造りの応接間も味わい深いものだった。応接間の明るく開放的な空間を実現するために大きく取られた窓からは、芭蕉が植えられた小庭が眺められ、母屋とは違った佇まいを見せていた。池の南側には茶室と腰掛待合が建つ。この腰掛待合は、屋根を大きく取った広い空間が設けてあり面白い。庭は、中心に三日月形の池が配置され

ており、その東端には滝が設けられている。また要所毎に変化に富んだ石灯籠や石を配置してあるのは、中々に趣深いものであった。この庭園は今後の修繕が必要な箇所も見受けられたようだが、谷崎が邸宅を去る時に望んだという「現状維持」を誠実に守り続ける日新電機の方々の姿勢には感銘を受けた。

下鴨神社聖域の程近くに建てられた二つの近代邸宅を拝見した後、その維持管理の難しさに思いを馳せながら帰路に就く。降りしきる雨に煙る糺の森は、朱の僅かに注した木々の葉がどこまでも濡れそぼっていても美しかった。

平出美玲



平成 25 年度関西大会現地検討会 (石村亭)



平成 25 年度関西大会現地検討会 (三井京都別邸)

報告

平成 25 年度日本庭園学会関西大会 現地検討会 (2)

実は、数年前に石村亭を見学したことがある。まだ京都工芸繊維大学で博士課程に入学したばかりのころで、日本建築のことも、日本庭園のこともまったく知らなかった。あの時は矢ヶ崎善太郎先生が調査で行かれるというので私もついていったが、恥ずかしながら、その時の記憶がほとんどない。綺麗な庭があったな、という漠然としたイメージしか残っていなかった。だから、今回は石村亭に入った時は不思議な気持ちだった。知っているようで知らない。フランス語でいうデジャヴということだろうか。

今回、この庭は決して大きくないが、ゆったりと、広く感じることに驚いた。谷崎潤一郎も『夢の浮き橋』の中で以下のように書いている。「千坪の庭は林泉と云うには少し狭過ぎるようだけれども、「植惣」と云う造園の技術のすぐれた庭師が丹精を凝らしたものなので、実際より余程奥深く幽邃な感じを与えた」(14頁)。しかし、当時の庭師は何に丹精を込めたのだろうか。どうやってその奥深い感じをつくりあげることができたのだろうか。まずは、細長い入り口が効果的である。別世界への入り口のようだ。それに、庭の中で木々の本数が多いということと、地形、特に建物と池の間の高低差の効果も大きいと思う。さらに、一目で全体を見回すことができなくて、主屋から歩いていくと、洋風と和風の離れ、そして腰掛け待合と茶室が次々とあられ、楽しい。これだけの建物があっても全然つめ過ぎという風には感じなかったのは、全体がよく調和しているという証拠だろう。谷崎潤一郎がなかなか手放せなかった気持ちはなんとなくわかる。

結局、大学生として見た石村亭と社会人になってから見た石村亭は全然違っていた。はじめて行った時は純粹

に立派な庭に感動した。今回、日本庭園学会の皆さんと訪れた時は庭の全体の構造と地形に注意を払って、その絶妙な構成に感動しました。では、次 10 年後にまた訪れる機会があれば、どういう風に見えるのだろうか。興味津々。

マレス・エマニュエル
(奈良文化財研究所 客員研究員)

編集後記

この度、新潟県在住の会員の協力により、全国大会は名古屋市に引き続いて、東京都以外での開催となった。この場を借りて御礼申し上げたい。宿泊場所の斡旋などもあるそうなので、できるだけ早く次回の本紙、もしくはHPにてお伝えしたい。新潟県は、近現代に庭づくりが盛んであったことが、今回のシンポジウムと現地検討会で知られ、今後の本会における研究につながっていくことが期待される。また、情報交換会では、地域の食べ物と地酒に舌鼓を打ちながら、研究や様々な活動にかんする話題が広がるに違いない。

【会費納入のお願い】

学会費の納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしくお願ひします。また、過年度滞納の方は併せて納入のほどよろしくお願ひします。

【協力者】

平出美玲、マレス・エマニュエル(奈良文化財研究所)、北森さやか(植彌加藤造園株式会社)

日本庭園学会広報委員会

今江秀史、加藤友規

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116

京都造形芸術大学日本庭園・歴史遺産研究センター 気付

日本庭園学会関西支部事務局 FAX(075)791-9342